キャラクター名
左海 雛善（さかい ひなよし）

プレイヤー名

シンドローム	バロール バロール	ワークス	ヴィジランテA	カヴァー	バーテンダー
オプショナル		年齢	25	性別	♂
覚醒	生誕	衝動	恐怖	初期侵食率	34 %
出自	安定した家庭	経験	永劫の別れ：嘉波咲宙	邂逅	幼馴染み：能真

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	1	2			3
感覚	2		0			2
精神	4		0			4
社会	2		0			2

HP	30
行動値	13
(非装備時)	13
戦闘移動	18
全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			ＲＣ			交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：裏社会	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ダメージグローブ	白兵	3r+3	1	1		素手データ変更
		0				
漆黒のアイアンダウン	白兵	7r+3		1+5+15+12+1D		コスト13、攻撃33+1D、装甲無視
漆黒のアイアンダウン@100	白兵	8r+3		1+6+18+14		コスト13、攻撃39+1D、装甲無視

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

高性能治療キット	
咲宙ちゃんの形見のもの	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
破壊者<ディザスター>	P	N		
嘉波咲宙	P 純愛	N 不安		
能真=ノーマン・サザーランド	P 親愛	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8	残り財産P： 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
斥力跳躍(5+2)	1	1	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	ー	
効果：	飛行状態で戦闘移動を行う。移動距離＋[LV*2]m							
紡ぎの魔眼(3+2)	5	1	ｵｰﾄ	至近	自身	自動	ー	
効果：	判定直前に使用。判定ダイス＋LV個。1ラウンド1回。							
グラビティバインド(3+2)	4	3	ｵｰﾄ	視界	単体	自動	ー	
効果：	判定直後に使用。判定の達成値ー[LV*3]　1ラウンド1回。							
コンセントレイト：バロール	2	2	ﾒｼﾞｬｰ	ー	ー	ー	ー	
効果：	C値をーLV							
漆黒の拳(5+2)	5	3	ﾒｼﾞｬｰ	武器	単体	対決	ー	
効果：	素手による攻撃。攻撃力＋LV、装甲無視。							
巨人の斧(3+2)	5	3	ﾒｼﾞｬｰ	武器	ー	対決	ー	
効果：	攻撃力＋LV*3、判定ダイスー2個							
瞬速の刃(3+2)	5	3	ﾒｼﾞｬｰ	武器	ー	対決	ー	
効果：	判定ダイス＋[LV+1]個							
魔王の理(5+2)	6	2	ﾒｼﾞｬｰ	ー	ー	対決	ー	
効果：	攻撃力＋LV*2							
軽快なる積荷	★	ー	常時	至近	自身	自動	ー	
効果：	大量の荷物も重さを感じずに運ぶことができる							
ポケットディメンジョン	★	ー	ﾒｼﾞｬｰ	至近	ー	自動	ー	
効果：	空間をねじ曲げて、あり得ないはずの空間を作り出す。							
屑鉄の橋	★	ー	ﾒｼﾞｬｰ	視界	ー	自動	ー	
効果：	重力を操り、スクラップやガラクタなどを集め大きな足場を構築する。							
効果：								
効果：								

俺／お前。ぶっきらぼう。元々はもう少し穏やかな性格をしていた。今は吹っ切れてしまった。
……今は、少しずつ時間を取り戻して歩き始めている。

元ヒーローであり、今はヴィジランテとして暗躍する青年。
裏路地でひっそりと営んでいるバーを拠点としながら、情報屋紛いのことをしたり、”ジャーム”を狩っている。
当初の目的を果たしたあとも、染み付いた癖でこの生活をやめられていない。

＊＊＊
生まれながらのオーヴァードでありながら、安定した家庭、友好な人間関係の中で育つ。
幼少期から能力に触れて育ったこともあり、人のためにこの力を使えたら……と思うようになる。
そんな折、”ノーマル”である少年に出会い、彼を助けたことから、「ノーマルが怖い思いをしないように」と思うようになる。
漠然としたその気持ちは、やがてヒーローを目指すという形へと育っていった。

近所に住んでいた年下の女の子、その友人。それから助けた少年。
彼らと親しくなり、幼馴染み達は育っていく。
学生となっても、ヒーローとなっても、時折諍いがあっても、仲良しであることは変わらずその仲は続いていた。
ヒーローやヴィランが闊歩する世界でも、そんな生き方は大人になっても終わらないと思っていた。
――いつしか抱いていた淡い感情に気付いてしまってからは、伝えるべきか、隠すべきか。
そんなことを真剣に、まるで世界の終わりを阻止するかのように、悩んでいた。

そんなに悩むのなら、早く決心すればよかったのだ。
しあわせな時間が終わってしまう前に。